

各小学校の現状

区分	中山小学校	伊草小学校	三保谷小学校	出丸小学校	八ツ保小学校	小見野小学校
平成27年度 新入学児童数	52人 (男29人、女23人)	48人 (男17人、女31人)	7人 (男4人、女3人)	13人 (男7人、女6人)	5人 (男5人、女0人)	19人 (男9人、女10人)
複式学級になる可能性 ※ 複式学級とは 小学校の場合、2つの 学年の人数が16人以 下(1年生を含む場合 は8人以下)になると、 2つの学年を1つのク ラスに編成するよう になる。(これを「複式 学級」という。)	当面の間(平成33年度までの 予測)では、複式学級になる可 能性はありません。	当面の間(平成33年度までの 予測)では、複式学級になる可 能性はありません。	平成31年度の予測では、2年 生、3年生が16人となり、複 式学級となる可能性があります。 2年生 6人(男5人、女1人) 3年生 10人(男6人、女4人)	平成33年度の予測では、2年 生、3年生が14人となり、複 式学級となる可能性があります。 2年生 5人(男4人、女1人) 3年生 9人(男6人、女3人)	平成27年度、3年生、4年生 が18人なので、2名転出する と、複式学級となる可能性があ ります。 3年生 8人(男4人、女4人) 4年生 10人(男5人、女5人)	平成32年度の予測では、2年 生、3年生が15人となり、複 式学級となる可能性がありま す。 2年生 9人(男4人、女5人) 3年生 6人(男1人、女5人)

小規模校の課題・問題点

学習活動面から

- 団体競技、班・グループ活動に制約が生じる。
- 多様な見方・考え方が育ちにくい。
- 成績が序列化しやすく、学力向上に結びつかないおそれがある。

生活面から

- 男女間の数にアンバランスが生じやすい。
- 人間関係が固定化し、順位付けされたり、関係がこじれると修復が難しい。
- 人間関係づくりや忍耐力の育成に問題がある。
- 切磋琢磨する機会が少ない。

保護者などの立場から

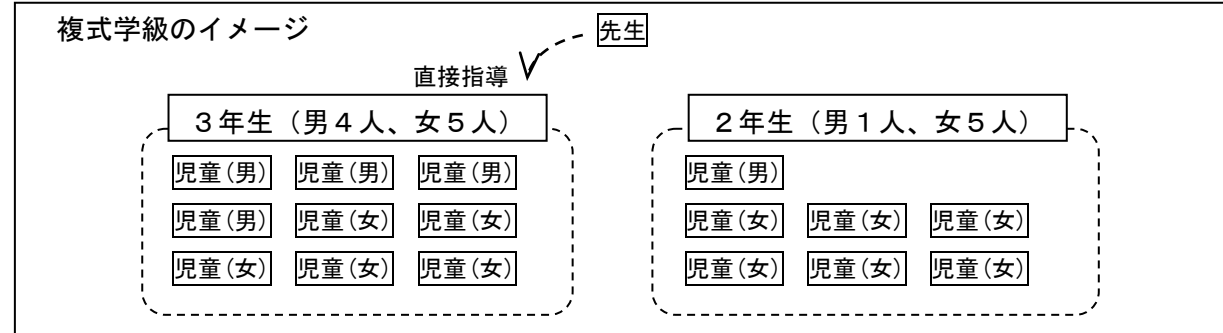
- ・ 旅行など校外活動、卒業アルバムの製作などで個人負担が多くなる。
- ・ PTA活動で、一人あたりの役割分担が多くなり、保護者の負担感が増す。

学校運営面から

- 教員が少ないため、緊急時に十分な対応がとれない恐れがある。
- 安心安全な登下校を考えた場合、集団が組みにくく、地域や保護者に依存する部分が大きくなる。
- 教職員が少ないため、学校行事などで十分な時間・場所を確保することが難しい。

複式学級

原則として、1人の先生が2つの学年の児童を教えることとなり、難しい学校運営を強いられる。



例えば、先生が3年生を指導している間、2年生は、自主学习となることもある。